平成19年度～平成21年度

文部科学省指定

高等学校における
キャリア教育の在り方
に関する調査研究

報告書

平成22年3月

山口県教育委員会

はじめに

近年の経済・社会情勢や雇用構造の変化などを背景として，キャリア教育を，子どもたち一人ひとりの社会的・職業的自立に向け，必要な知識，技能，態度を育む教育と位置付け，義務教育から高等教育に至るまで体系的に推進することが求められています。

このため，本県においては，平成16年度に全国で初めて「キャリア教育推進フォーラム」を開催し，キャリア教育の普及・啓発を図るとともに，平成19年度からは「キャリア教育実践協議会」を毎年開催し，県内すべての公立小・中・高・特別支援学校の教員及びＰＴＡ関係者の参加を得て，キャリア教育の深化・充実に努めてきたところです。

また，各学校においては，生徒や地域の実態に応じて作成された全体計画に基づき，各教科・科目の授業の見直しをはじめ，大学訪問やインターンシップなどの多様な体験学習を実施するなど，キャリア教育の視点に立った教育活動の充実・改善を進めているところです。

こうした中，平成22年4月から先行実施される新しい高等学校学習指導要領の総則に，学校の教育活動全体を通じたキャリア教育の推進が盛り込まれるとともに，同じく平成22年4月から実施する山口県教育ビジョンの新実行計画では，本県教育の柱の一つとしてキャリア教育の推進が位置付けられたところです。

県教委では，平成19年度から平成21年度までの３年間，文部科学省の委託を受け，岩国総合，徳山北，宇部西，田部の県立高等学校４校を推進校として，高等学校におけるキャリア教育の在り方に関する調査研究を実施し，キャリア教育に係る具体的な学習活動やキャリア・カウンセリングについて，それぞれの学校の状況に応じた取組を進めてきました。

本報告書は，各推進校が実施した調査研究の成果と課題についてまとめるとともに，平成18年３月に県教育委員会が作成した『キャリア教育学習プログラム』の一部を再掲しております。

各学校におかれましては，本報告書を十分に御活用いただき，家庭・地域社会・産業界等との連携を一層深め，生徒一人ひとりの社会的自立を支援するキャリア教育に積極的に取り組んでいただきますようお願いします。

平成22年３月

山口県教育委員会

高校教育課長　東田　浩一

目　　次

はじめに

第１章　山口県におけるキャリア教育・・・・・・Ｐ１
キャリア教育のねらい　　キャリア教育の現状と課題
キャリア教育の進め方　　今後の取組の方向性
キャリア教育の概念図　　発達段階に応じて，夢や目標を考える視点
小・中・高を通じた児童生徒の成長のイメージ
家庭，地域，産業界等と連携したキャリア教育

第２章　調査研究の概要・・・・・・・・・・・・・Ｐ４
調査研究の趣旨及び期間等（国の実施要項から）
本県の調査研究の概要　　調査研究協議会で出された意見（抜粋）

第３章　推進校の取組・・・・・・・・・・・・・・Ｐ８
学校の概要　　キャリア教育の効果的な指導内容・指導方法の充実・改善
キャリア・カウンセラーの活用の在り方　　その他の取組
まとめと今後に向けた課題　　全体計画　　年間指導計画

（１）県立岩国総合高等学校　Ｐ　８

（２）県立徳山北高等学校　Ｐ１８

（３）県立宇部西高等学校　Ｐ２８

（４）県立田部高等学校　Ｐ３８

第４章　参考資料・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ４８

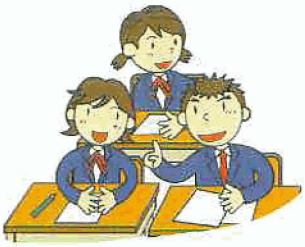
（１）「キャリア教育学習プログラム」再掲　Ｐ４８
平成18年3月　山口県教育委員会発行

（２）県内公立高等学校の状況（平成21年度末調査より）　Ｐ５９
キャリア教育に係る活動実施状況（全日制・定時制）

（３）関係法令等　Ｐ６１
教育基本法　　教育振興基本計画　　高等学校学習指導要領

キャリア教育のねらい

夢や目標をもち，一人の社会人として自立できるよう，自分にふさわしい生き方を実現しようとする意欲や態度，能力の育成



キャリア教育の現状と課題

◇現状
- キャリア教育の必要性に対する理解が家庭・地域・産業界等で進んできた。
- 職場体験やインターンシップなど体験的な学習活動が充実してきた。
- 高等学校新規卒業生の大学等進学率・就職率は近年上昇している。
- 進路が未決定のまま高等学校を卒業する者の割合は全国に比べて低い。

◆課題
- 自分のよさを伸ばし将来を切り開いていこうとする意欲や能力の更なる育成が必要
- コミュニケーション能力を含めた人間関係を築く力の育成が必要
- 一人ひとりの成長を促すため，小学校段階からの系統的な取組が必要
- 学校と家庭・地域・産業界等との一層の連携協力が必要

キャリア教育の進め方

発達段階に応じて
小学校段階から教育活動全体を通じての系統的な取組の積み上げ

体験活動を重視して
職場体験，インターンシップ等の体験活動の充実

連携・協力して
学校と家庭・地域・産業界等との連携協力体制の強化

今後の取組の方向性

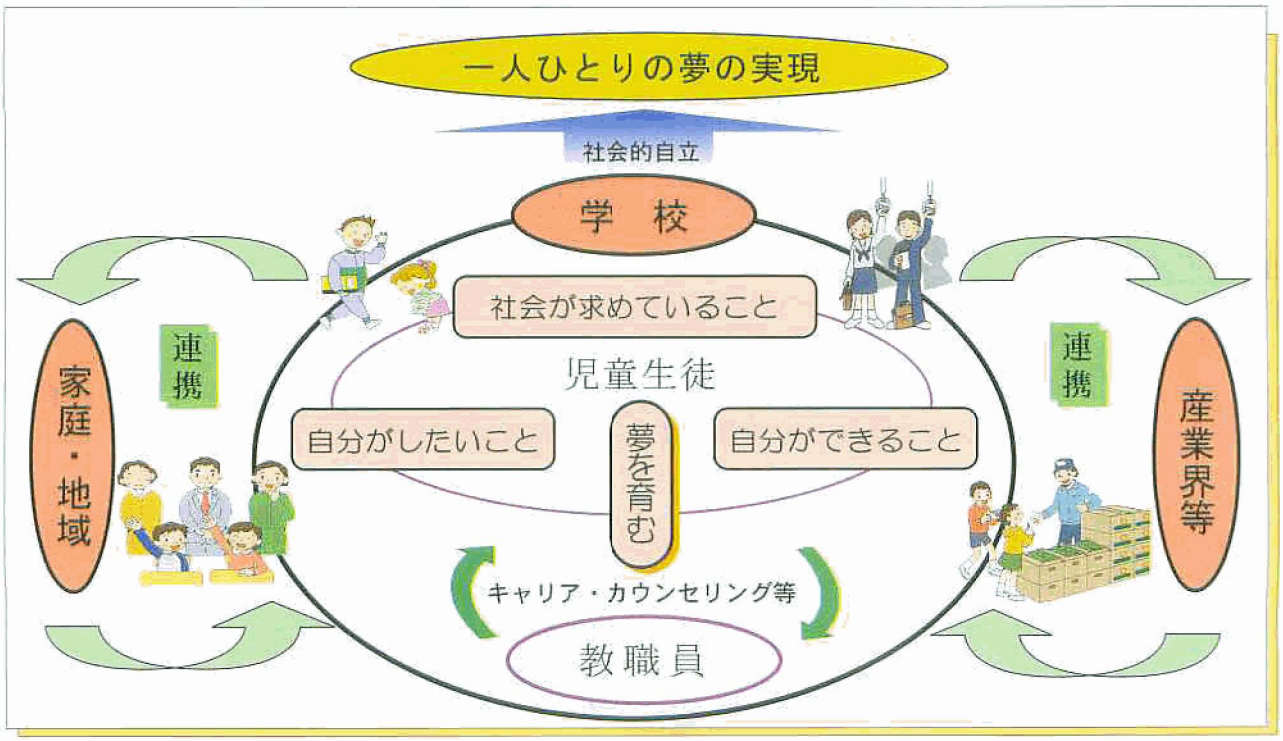
○ 次の２つの能力の育成に重点を置いた指導の充実
- 夢や目標を具体化し，実現に向けた道筋を描いて進んでいく能力
- 社会人として生きていく上での基盤となるコミュニケーション能力

○ すべての学校で組織的なキャリア教育を推進
- 本県のキャリア教育についての共通理解
- 各学校の実態と児童生徒のニーズ等を踏まえた取組

○ 小・中・高を通じた系統的・計画的な取組の実施
- 児童生徒一人ひとりの様子や状況の確実な引継ぎ
- キャリア教育に関する情報を校種間で共有

○ 学校と家庭・地域・産業界等との一層の連携
- 家庭や地域における取組の普及・啓発
- 「やまぐち教育応援団制度」を活用した体験的な学習の実施

キャリア教育の概念図

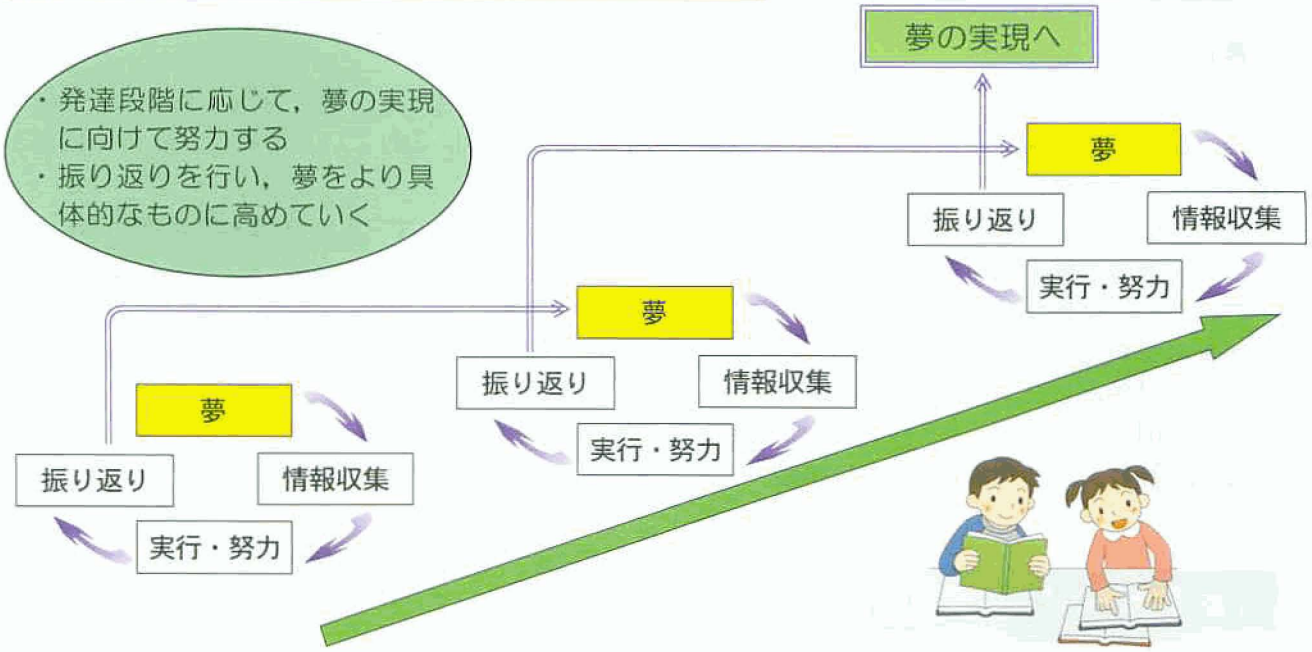


発達段階に応じて，夢や目標を考える視点

児童生徒の夢や目標の実現に向けて，３つの視点「自分がしたいこと」「自分ができること」「社会が求めていること」のバランスを図りながら，発達段階に応じて継続的な指導を行う。

発達段階 ／ ３つの視点	小学校（小学部）			中学校（中学部）			高等学校（高等部）		
	低学年	中学年	高学年	１年	２年	３年	１年	２年	３年
自分がしたいこと	様々な体験等を通じて自分がしたいことを見つけ，将来の夢や目標につなげる								
自分ができること	夢や目標の実現に向けて継続的に努力し，自分ができることを増やし自分のよさを伸ばす								
社会が求めていること	社会の一員としての自覚を深め，自分の役割を果たそうとする意欲や能力を高める								

小・中・高を通じた児童生徒の成長のイメージ



［夢］	・自分のしたいこと，好きなことを見つける。 ・感動体験や人との出会いを通して，自分の生き方を見いだす手がかりを得る。
［情報収集］	・夢を実現するために必要な情報を集める。 ・得られた情報をもとに，何をすればよいかを考える。
［実行・努力］	・いま取り組むべき学習や活動について，考えたことを実行する。 ・夢の実現に向けた課題を解決していくために努力する。
［振り返り］	・これまでの努力を振り返り，自分の思いや考えをまとめ，整理する。 ・自己理解を深めながら，将来社会人としてどうあるべきかを考える。 ・夢を，より具体的なものに高める。

家庭，地域，産業界等と連携したキャリア教育

キャリア教育を推進するに当たり，学校から家庭や地域，産業界に対して働きかけを行う。

家庭や地域に対する働きかけ

- ○ 子どもの夢について家庭でも対話を
- ○ あいさつなどの基本的な生活習慣が身に付くように
- ○ 家事等の役割分担を与えるように
- ○ 幼児や高齢者などと触れ合う機会を
- ○ ボランティア活動や地域の祭りなどで責任ある役割が経験できるように

産業界に対する働きかけ

- ○ 産業界関係者と教職員が相互に話し合い，理解し合う場の設定
- ○ 職場見学，職場体験，インターンシップ等の受入れについて協力依頼
- ○ 学校で行う職業講話，マナー講習，生徒とのディスカッションなどの講師を依頼
- ○ 「やまぐち教育応援団」の登録を依頼

社会全体で取り組むことにより大きな効果を発揮

調査研究の趣旨及び期間等（国の実施要項から）

（趣旨）

近年，若者が職業について考えたり選択・決定を先送りする傾向，いわゆるモラトリアム傾向や進路意識や目的意識が希薄なまま進学や就職する者の増加が指摘されている。特に，この傾向は，高等学校の普通科において強いのではないかとの指摘がある。

また，若者自立・挑戦戦略会議の総合人材育成施策をはじめとして　各種会議・提言等において，キャリア教育の推進が重要である等と盛り込まれているところである。

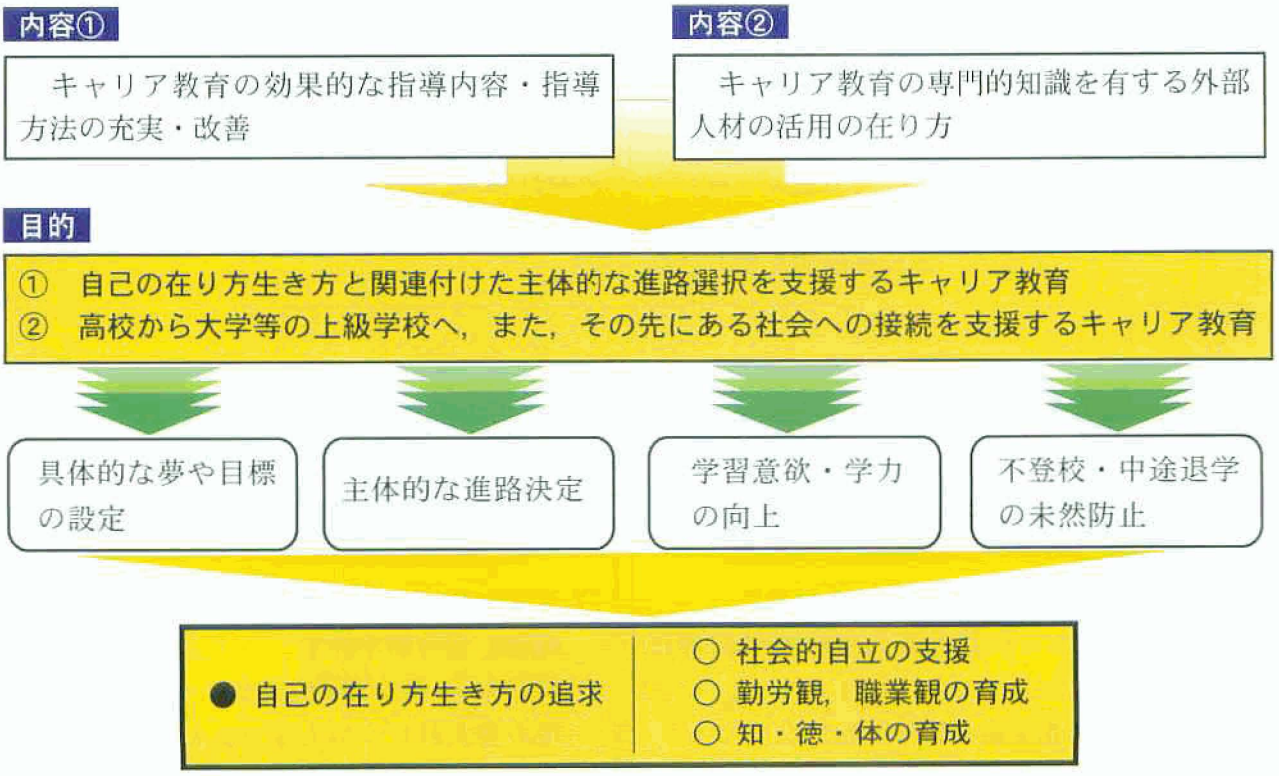
このため，高等学校，特に普通科高校におけるキャリア教育を充実するため，①高等学校におけるキャリア教育，②高等学校卒業者及び中退者への各支援の在り方について検討すること，などを調査研究課題とした事業を実施する。

（委嘱期間）　平成19年度から平成21年度まで（３年間）

（委 嘱 先）　37都道府県119高等学校

本県の調査研究の概要

1　調査研究の内容及び目的



2　調査研究計画

平成19年度　キャリア教育を実践する上での各学校における具体的な課題の洗い出し

平成20年度　キャリア教育の充実・改善のための具体的方策の実践と検証

平成21年度　研究成果のまとめ及び具体的実践方法の県下への普及

3　調査研究組織

調査研究協議会

委　員
- 有識者
- 商工会議所等関係者
- ＰＴＡ関係者
- 労働局関係者
- 推進校関係者
- 県教育委員会関係者

事 務 局
- 県教育委員会
  高校教育課
  義務教育課

毎年２回，計６回開催

指導・助言 →

← 報告

推進校
県立岩国総合高等学校（岩国市）
県立徳山北高等学校（周南市）
県立宇部西高等学校（宇部市）
県立田部高等学校（下関市）

4　調査研究協議会委員（推進校関係者及び高校教育課長を除く）

【平成19年度】
田中　　均（山口大学アドミッションセンター准教授）　※会長
佐藤　倫弘（下関商工会議所指導部長）
岡田　秀紀（山口労働局職業安定部職業安定課課長補佐）
松田　健一（県公立高等学校ＰＴＡ連合会副会長）

【平成20年度】
富永　倫彦（山口大学アドミッションセンター教授）　※会長
藤麻　一三（株式会社フジマ代表取締役社長）
松永　朋子（特定非営利活動法人コミュニティ友志会代表）
佐藤　倫弘（下関商工会議所指導部長）
尾崎　典子（光高校・光丘高校ほかスクールカウンセラー）
石井　省一（山口労働局職業安定部職業安定課課長補佐）
伊藤　　實（県公立高等学校ＰＴＡ連合会会長）

【平成21年度】
松田　　博（山口大学アドミッションセンター教授）　※会長
藤麻　一三（株式会社フジマ代表取締役社長）
松永　朋子（特定非営利活動法人コミュニティ友志会代表）
佐藤　倫弘（下関商工会議所指導部長）
尾崎　典子（光高校・光丘高校ほかスクールカウンセラー）
金本　正義（山口労働局職業安定部職業安定課課長補佐）
多々良健司（県公立高等学校ＰＴＡ連合会会長）

調査研究協議会で出された意見（抜粋）

【キャリア教育とは】

キーワード① 教科学習

○　各教科の授業そのものがキャリア教育である。

○　課題解決の力は，教科の学習の中で育まれる。

キーワード② 汎用力

○　キャリア教育は「汎用力」すなわち「どのような進路に進んでも必要な能力」を育む教育である。

キーワード③ 学びの反芻（はんすう）

○　キャリアは時間とともに系統的に積み重なるものではなく，生徒自身の中で行きつ戻りつしながら形成されていくものである。キャリア形成の過程で「学びの反芻（はんすう）」が必要である。

○　キャリア教育は，結果をすぐ出さなければならないという発想で行うものではない。

【キャリア教育の必要性】

キーワード④ コミュニケーション能力

○　大人と接する機会，大人とのコミュニケーションをとる経験が大切である。

○　コミュニケーション能力の育成を，キャリア教育という形で高校でやる意義は大きい。

○　コミュニケーション能力の育成の中で，状況判断力やマナーなども身に付けてほしい。

キーワード⑤ 失敗からの立ち直り

○　小さな成功体験が，失敗や挫折を乗り越え，新たな目標を立てて努力する力となる。

○　失敗や挫折などの場面で柔軟に対応する力，修正する能力を身に付けることが大切である。

キーワード⑥ 目標・自立

○　目標に向かって努力する経験が，途中で方向転換しても対応できる力につながる。

○　キャリア教育を通して，自立心を育てていくことが，成功の秘訣である。

【キャリア教育実施上の留意点】

キーワード⑦ 生徒の主体的な思考

○　生徒が受け身になることがないよう，自ら調べ自ら働きかけていく仕掛けが大切である。

○　その仕事に就くためにどうすればいいかということだけでなく，「どんな○○になりたいか」具体的なイメージをふくらませることにより，思考が深まり，自己理解にもつながる。

キーワード⑧ 追い立てない

○　「早く決めろ」と追い立てることはよくない。いい意味での「遊び」が必要である。

○　「第一志望しか決めない」ことの危うさを認識しておく必要がある。

【インターンシップ】

キーワード⑨ すべての高校で実施する意義

○　中学校の職場体験では「仕事を知る」こと，高校のインターンシップでは「仕事をしている人を知る」こと，大学では「人を知った上で更に仕事を知る」ことが目的となる。

○　インターンシップを行うと，その仕事に就くために何をしておくべきかを深く考えることにより，大学等への進学意欲も高まる。

○　大学進学者も，どの学部・学科で何を学ぶかを考える上で，体験することの意味は大きい。

キーワード⑩ 受入事業所との連携

○　学校として，祭りなど地域の様々な行事に貢献することが，連携を図る上で大切である。

○　一人ひとりの教員が，経営者と人間関係をつくってほしい。

【キャリア・カウンセリング】

キーワード⑪ 外部カウンセラーの活用

○　教員でない者に話を聞いてもらうことは，生徒にとって新鮮であり，効果が大きい。

○　生徒にとって，外部カウンセラーに相談することは，はじめは抵抗がある。教員の適切な働きかけにより，積極的に相談するようになり，効果が高まる。

キーワード⑫ 教員によるキャリア・カウンセリング

○　外部カウンセラーには，教員に対するコンサルテーションの役割がある。

○　生徒の「得意」「不得意」「やりたい」「やりたくない」等をしっかりと聞いてあげることにより自己理解を支援するのは，教員の役割である。

【保護者とのかかわり】

キーワード⑬ 保護者に対するキャリア教育

○　親や教員も含め，一生懸命働く人の姿を見て，キャリアに対する意識が身に付く。

○　保護者が我が子の現状を知ることが，その後のキャリア教育につながる。

キーワード⑭ 保護者の協力

○　輝かしい経歴をもった方だけでなく，社会での挫折体験をもつ方も含め，講師などの形で保護者に積極的に協力してもらう。

○　学校がキャリア教育に対する姿勢，目標や目的，カリキュラムをきちんと保護者に示すことにより，ＰＴＡ会費の費目を工夫するなどして，金銭面で支援できる可能性がある。

【地域・産業界・上級学校等とのかかわり】

キーワード⑮ 相手の立場を考える

○　進路説明会や職業人講話の講師を依頼する場合，目的をきちんと説明する必要がある。

○　行事計画を組む場合，学校の都合に企業の日程を合わせてもらおうとするのではなく，相手の都合に配慮することが必要である。

キーワード⑯ 教員の在り方

○　キャリア教育の参考になる，経営論やビジネスマナーに関する本などを読んでほしい。

○　学校の中に，ＰＴＡや企業などとの連携をコーディネートする能力をもった教員がどれだけいるかが，協力を得るに当たっての鍵となる。地域や企業の活動に協力する教員が必要である。

人間関係づくり

【キャリア教育推進上の課題】

○ 地域に開かれた学校づくり
○ 保護者を巻きこんだ取組の推進
○ 学校と地域・企業等をつなぐコーディネート役の育成
○ 社会の動きを見据えたキャリア教育の推進
○ 学校におけるキャリア教育の構造化の推進
○ 教科の力とキャリア形成に必要な力との関係の整理